

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	bonキッズ北堀江		
○保護者評価実施期間	令和6年 7月 1日		～ 令和6年 8月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和6年 8月 1日		～ 令和6年 8月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが通所を楽しみにしてくれているところ。	保護者の希望に対してすぐに実施するのではなくアセスメントをしっかりと行い、いかにスモールステップで保護者の希望に沿うようにスモールステップを踏めるかの作戦を丁寧に立てているところ。スモールステップを踏んでもらうことで子どもが無理なく目標に近づく成功体験を積めるかというところを大事にしている。	支援の目標を子どもの認知スキルや興味関心に合わせることで・スモールステップをどう踏むと子どもに負担なくより楽しく遊び続けることができるのかを保護者や新人スタッフにも理解して計画実施していけるかを教育プログラムに組み込んでいく。
2	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされている。	療育を見学いただいている専門療育の保護者には保護者ノートをつけていただき、療育スタッフとコミュニケーションを取っています。またLINEやInstagramなどを活用して保護者に情報がいきわたるように工夫しております。	保護者が相談しやすい方法、情報を得やすい方法を時代背景に合わせて工夫を続けていくこと。例えばX(旧ツイッター)などを利用する、など保護者の利便性に合わせたコミュニケーションツールを探っていく必要があると考えている。
3	定期的に保護者に対して面談や育児に関する助言等の支援が行われている。	保護者からの要望があればできる限り相談に応じる様に配置を考えて対応しています。また保護者からの要望が出にくい方にもできる限り声をかけてニーズを引き出して相談につなげるようにしています。	子どもを担当している児童以外のスタッフ(主に管理者)が相談の時間を取ったり保護者に声がけをしているが、今年は人員不足で管理者自身が担当児をもっている時間が多い。そうなると同じ時間帯の保護者は子どもの担当者しか話が聞けないので、できる限り管理者は担当児童を持たなくてもいい人員配置にしていく必要がある。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がない。	専門療育という事業所の事業から考えると1年の療育プログラムの中で地域の子どものと関わるのは難しいと考える。	利用児童が地域の子どものと関わるのは難しいが、療育の空き時間に地域の子どもの発達相談窓口として体験利用してもらうなどの交流はできるかもしれない。今後は地域の発達の気になる子どもの相談や遊び場の開放として地域に開かれた事業所をめざせると考えている。
2	父母の会の活動支援や、保護者回答の開催により保護者同士の連携が支援されていない。	コロナ禍で保護者の交流会がなくなっていたため。	昨年秋より保護者交流会を再開している。年に3回の開催を目指していて、交流を望む保護者のニーズに応えていきたい。
3	保護者や利用者に対して避難訓練などを実施できていない。	従業員は避難訓練を実施していますが、保護者や児童がいる時間帯に避難訓練を実施できていないため。また避難訓練の日程は掲示しているがハザードマップなどは子どもが地図を見入っしまい帰れなくなることが多いため掲示していないことが原因と考えられる。	利用児童に対する避難訓練をしっかりプログラムに入れていき、楽しみながら非常時の勉強ができる様にしていく。